



わだ ゆいかちゃん
(5さい)

ピアノを ならって きれいな きょくを ひけるように になりたいの。たくさん れんしゅうして すてきな ピアニストに なりたいな。



まえざわ なおとくん
(5さい)

おにいちゃんみたい な やきゅうせんしゅに なりたいな。ジャガースに はいって おにいちゃんと やきゅうをするの。おにいちゃん かつこいひんだよ。

摩周丘幼稚園のおともだち



ぼくのゆめ
わたしのゆめ

おひさま保育園のおともだち



こいずみ せなちゃん
(6さい)

おかあさんと クッキーをつくるのが すき。おかあさんの クッキーは おいしいよ。もつと おてつだいを して なんでも つくれるように になりたいの。



いまがわりゅうのすけくん
(6さい)

やきゅうが すき。するの も みるの も おもしろいよ。おおきくなったら やきゅうせんしゅに なるんだ。だいすきな ファイターズに はいりたいな。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

自分らしさを生かした写真が
人の喜びにつながっていったら
写真展「家族じかん〜いつもそばに〜」を開催している

田澤 淳子さん(37歳・鈴蘭1)



田澤さんの写真展は、12月31日(月)まで人形の家(朝日1)で行われています。

自身2回目となる写真展を開催中の田澤さん。アーティストとして数々の写真展で入選しているほか、お客さまからの依頼により撮影を行う「LIVING ROOM」代表として、また写真素材販売大手アマナイメージズの契約カメラマンとして活躍しています。田澤さんの原点、写真との出会いは？

―父が毎年お正月に撮っていた家族写真ですね。父が手にしていたのは古いフィルムカメラ。他にも旅行時など、私たちが家族の日常にいつも父のカメラがあり、気づかないうちに影響を受けていたのかもしれない。高校生になり、銀色夏生さんの写真詩集に出会ったのが、作品としての写真にひかれた最初。社会人になったとき、かつて父が使っていたカメラを譲り受け、修理して写真を撮り始めました。マニュアルのカメラでしたが、自己流で学びました。

写真の魅力は？

―写真って静止画、つまり止まっているものですね。写真を写っているものの背後にあるものや、撮影の場所や状況などを想像できる楽しさがあると思います。シャッターを切るときは夢中ですが、作品として皆さんの前に出すときは、想像し

てもらう要素をたくさん入れるよう考えています。今回の写真展のテーマについて。

―普段、撮影のテーマは特に決めず、そのとき撮りたいものを撮っています。常にカメラを持つていないと不安で、いつも持ち歩いています。撮りたい瞬間がいつもいつもやってくるわけではありませんが、撮りたくなるときというのは、大げさに言うと被写体の「撮って」という声が聞こえてくる感じ。そしてそれは、日々家族と関わっている中で訪れる瞬間でもあります。写真を見てくださる方にも、身近な家族との時間を大切に過ごしてほしい、かけがえないものは日常だよという思いを込めて、いろいろな家族を撮った「家族じかん」という写真展にしました。

今後の抱負について

―現在、表現としてに加え、仕事としての写真もあり、双方を成り立たせる難しさも感じているところ。加工などに頼ることなく、私にしか撮れないものを、たくさんの方に見ていただきたいというのが基本。そして、自分らしさを生かした写真が、表現・仕事問わず人の喜びにつながっていったら…。私にとってもこの上ない喜びです。